

企業や大学等が女子中高生等を対象に実施する、理工系のイベント情報を発信する取組である「夏のリコチャレ 2024～理工系のお仕事体感しよう！～」を周知するものです。

事務連絡  
令和6年6月21日

各都道府県教育委員会担当課  
各指定都市教育委員会担当課  
各都道府県私立学校主管部課  
構造改革特別区域法第12条第1項を受けた  
学校設置会社を所轄する各地方公共団体の  
学校設置会社担当課  
附属学校を置く各国公立大学法人担当課  
各文部科学大臣所轄学校法人担当課

御中

内閣府男女共同参画局推進課  
文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課

「夏のリコチャレ2024～理工系のお仕事体感しよう！～」の  
周知への御協力について（依頼）

平素より、男女共同参画社会の形成の促進について御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

内閣府・文部科学省・一般社団法人日本経済団体連合会（以下：経団連）は、女子中高生等の理工系分野への進路選択を応援するため、夏休み期間を利用して「夏のリコチャレ 2024～理工系のお仕事体感しよう！～」を開催いたします。

本イベントは、内閣府・文部科学省・経団連が連携し、企業や大学等が女子中高生等を対象に実施する、理工系のイベント情報を、内閣府「理工チャレンジ（リコチャレ）」サイトを通じて、積極的に社会へ発信する取組です。

昨年度は、全国で162件のイベントが開催され、6,300名以上の女子中高生等に参加いただきました。今年度も対面およびオンラインで、職場見学・仕事体験・女性研究者等との交流会等、様々なイベントが開催される予定です。

については、各都道府県教育委員会担当課におかれては、市（指定都市を除く。）区町村教育委員会及び所管の学校に対して、各指定都市教育委員会担当課におかれては、所管の学校に対して、各都道府県私立学校主管部課におかれては、所管の学校及び学校法

人等に対して、構造改革特別区域法第 12 条第 1 項を受けた学校設置会社を所轄する各地方公共団体の学校設置会社担当課におかれては、所管の学校設置会社に対して、国公立大学法人担当課におかれては、その設置する学校に対して、文部科学大臣所轄学校法人担当課におかれては、その設置する学校に対して、周知をお願いいたします。

(本件担当)

文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課  
男女共同参画企画係

電話：03-5253-4111（内線：3268）

別紙：「夏のリコチャレ 2024～理工系のお仕事体感しよう！～」について

○「夏のリコチャレ 2024～理工系のお仕事体感しよう！～」概要

日 時： 2024年6月～9月

場 所： 全国の企業・大学等の事業所、研究所等およびオンライン

内 容： 理工系の職場・工場等の見学、仕事体験、実験、工作教室、女性研究者・技術者との交流会等

対 象： 女子中高生等（一般公開）

主 催： 内閣府、文部科学省、一般社団法人日本経済団体連合会

※ 詳細は特設ページを御覧ください。

<https://www.gender.go.jp/c-challenge/event/2024/summer.html>



（「夏のリコチャレ 2024～理工系のお仕事体感しよう！～」のロゴ）

○理工チャレンジ（リコチャレ）とは

理工系分野に興味がある女子中高生・女子学生の皆さんが、将来の自分をしっかりイメージして進路選択（チャレンジ）することを応援するため、内閣府男女共同参画局が中心となって、理工系分野が充実している大学や企業など「リコチャレ応援団体」の取組やイベント、理工系分野で活躍する女性からのメッセージなどを紹介する取組です。

内閣府「理工チャレンジ（リコチャレ）」ホームページ

<https://www.gender.go.jp/c-challenge/>





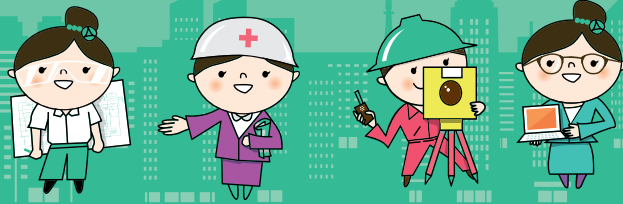
リコ  
チャレ

RIKOCHALLENGE

理工チャレンジ



女子生徒等の理工系への進路選択を応援

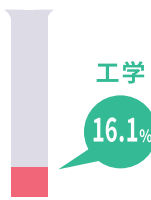
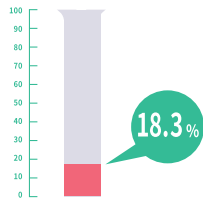


女子中高生・女子学生の皆さんが、将来の自分をしっかりイメージして理工系分野に進路選択(チャレンジ)することを応援する取組を、内閣府男女共同参画局が中心となって進めています。

### 日本の理工系分野の現状

日本の研究者に  
占める女性の割合

専攻分野別に見た  
女子学生の割合(学部生)



出典：総務省「科学技術研究調査」(令和5年)

出典：文部科学省「学校基本調査」(令和5年度)

### 女性の理工系人材が必要です

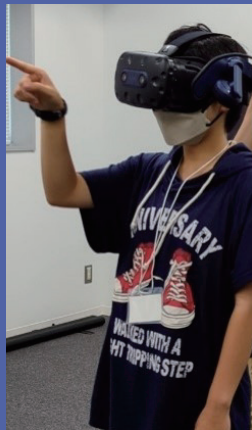
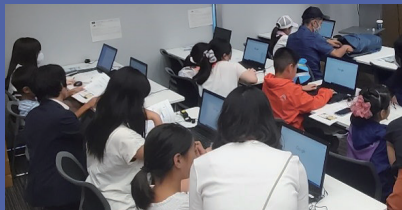
科学技術・学術分野における技術革新(イノベーション)の創出には、多様な視点や発想を取り入れることが不可欠であり、女性研究者・技術者の活躍が期待されています。しかし、特に理工系分野を中心に、女性研究者・技術者の数は低い水準に留まっています。そのため、理工系分野に対する興味関心や理解を向上させる取組を推進し、次代を担う女性の理工系人材の育成につなげます。

### リコチャレイベント

#### 夏のリコチャレ

～理工系のお仕事体感しよう～

夏休み期間に、主に女子小中高生を対象として実施する企業・大学・学術団体等のイベントを取りまとめて発信しています。  
【共催：内閣府、文部科学省、経団連】



職場見学、工場見学、職業体験、実験教室、女性社員との交流、シンポジウム等

2023年開催実績96団体162イベント約6,300名が参加

※夏のリコチャレ以外にも、通年でイベントを発信しています

### リコチャレウェブサイト

#### 理工チャレンジ(リコチャレ)サイト



<https://www.gender.go.jp/c-challenge/>

#### イベント情報



#### 理工系女性からのメッセージ

**伊藤 敬枝さん**  
\* 野村総合研究所  
\* システムエンジニア(ソフトウェア)上級専門  
私は企業で働き、ITやシステムの仕事をして、IT系分野の女性として活躍しています。

理工系分野を志した経緯・理由  
数学が大好きで、高校時代に数学の勉強が楽しかったのがきっかけで理工系分野に進むことに決めました。

現在の仕事(研究)の魅力やおもしろさ  
世界にはまだ未知の世界がたくさんあり、100倍と驚くことばかりです。自分の研究で新しい発見や成果を出せるのがとても楽しいです。企業で働くことで、最新の設備や技術を使いながら研究ができるのも魅力です。

**江尻 さん**  
\* 株式会社 日本郵政  
\* 郵便局 郵便配達員  
郵便局で働くことで、毎日新しい場所を訪れ、様々な人々と交流できるのがとても楽しいです。また、郵便局には多くの女性職員が活躍しており、先輩から学ぶことも多いです。

理工系分野を志した経緯・理由  
幼少時から理科が好きで、特に数学や物理に興味を持っていました。高校時代に理系の勉強が楽しかったことが、今の職業選択につながっています。

#### 企業、大学等からのメッセージ

**株式会社Zin Service Co., Ltd.**  
Zin Service Co., Ltd.は、IT分野で活躍する女性を積極的に採用しています。女性ならではの視点や発想が、私たちの業務に大きな貢献をしています。また、働きやすい環境を整え、女性の活躍をサポートしています。

企業からのメッセージ  
企業では、女性ならではの視点や発想が、新しい技術やサービスの開発に大きく貢献しています。また、女性活躍推進法に基づき、働きやすい環境を整え、女性の活躍をサポートしています。

**大学からのメッセージ**  
大学では、理工系分野の女性を積極的に採用しています。女性ならではの視点や発想が、私たちの研究や教育に大きな貢献をしています。また、働きやすい環境を整え、女性の活躍をサポートしています。

大学からのメッセージ  
大学では、女性ならではの視点や発想が、新しい技術やサービスの開発に大きく貢献しています。また、女性活躍推進法に基づき、働きやすい環境を整え、女性の活躍をサポートしています。



リコチャレ応援団体・理工系女子応援ネットワーク

理工チャレンジの取組は、趣旨に賛同する産・学・官の団体が連携して進めています。



リコチャレ応援団体

理工チャレンジの趣旨に賛同する大学・企業・学術団体等

約 **890** 団体



理工系女子応援ネットワーク

リコチャレ応援団体のうち、具体的な取組・活動を行っている団体

約 **220** 団体



理工系女子応援ネットワーク会議

- 理工系女子応援ネットワークに登録した団体が出席
- 取組に関する情報共有を通じて相互連携を強化



STEM Girls Ambassadors

女子生徒等が、STEM 関連分野に興味関心を持ち、理工系分野への進路を自分自身の選択の一つとして前向きに捉えることを推進するため、2018年6月、「STEM Girls Ambassadors (理工系女子応援大使)」が立ち上げられました。

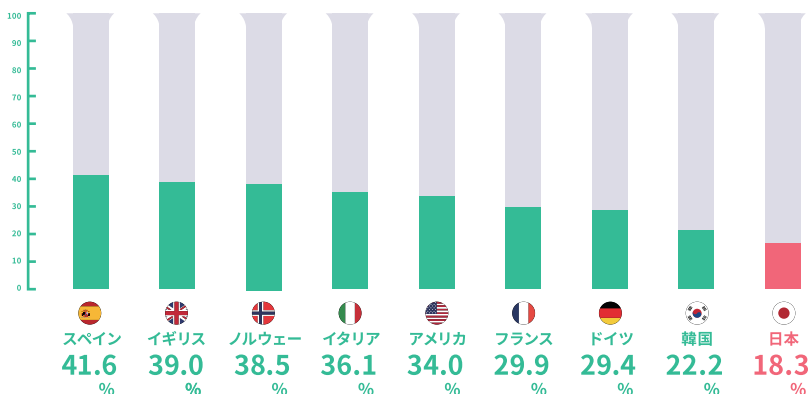


シンポジウム

- 有識者や実際に活躍する女性研究者・技術者（ロールモデル）による情報発信
- 関係団体と連携して開催するなど、社会の理解を促進



諸外国の研究者に占める女性割合



諸外国の研究者に占める女性割合は30%を超える国が増えてきており、それと比較すると日本は低い水準に留まっています。

(備考)  
1. 総務省「科学技術研究調査」(令和5年), OECD"Main Science and Technology Indicators", 米国国立科学財団 (National Science Foundation: NSF) "Science and Engineering Indicators"より作成。  
2. 日本の数値は、2023(令和5)年3月31日現在の値。アメリカ、イギリスは2019(令和元)年値。その他の国は、2020(令和2)年値。推定値及び暫定値を含む。  
3. アメリカの数値は、雇用されている科学者 (Scientists) における女性の割合 (人文科学の一部及び社会科学を含む)。  
4. 数値は2024年1月26日確認時点。